【公報種別】特許法第１７条の２の規定による補正の掲載
【部門区分】第１部門第２区分
【発行日】平成20年5月8日(2008.5.8)

【公開番号】特開2007-275654(P2007-275654A)
【公開日】平成19年10月25日(2007.10.25)
【年通号数】公開・登録公報2007-041
【出願番号】特願2007-199820(P2007-199820)
【国際特許分類】
Ａ６３Ｆ　7/02　(2006.01)
【ＦＩ】
Ａ６３Ｆ　7/02　３２０

【手続補正書】
【提出日】平成20年3月26日(2008.3.26)
【手続補正１】
【補正対象書類名】特許請求の範囲
【補正対象項目名】請求項１
【補正方法】変更
【補正の内容】
【請求項１】
各々を識別可能な複数種類の識別情報を可変表示する可変表示部を複数有する可変表示装置を備え、前記可変表示部における識別情報の表示結果が予め定められた特定表示結果となったときに遊技者にとって有利な特定遊技状態を発生し得る弾球遊技機において、
遊技領域に設けられた特定領域において遊技球を検出する遊技球検出手段と、
該遊技球検出手段により遊技球が検出されたことにもとづいて、前記可変表示部において識別情報の可変表示を開始させ、表示結果を導出する可変表示実行手段と、
前記遊技球検出手段により遊技球が検出されたことにもとづいて、前記可変表示実行手段による識別情報の可変表示を開始させる以前に、前記可変表示部における識別情報の表示結果を前記特定表示結果とするか否かを判定する結果判定手段と、
該結果判定手段による判定に基づいて前記可変表示部における識別情報の表示結果をその導出以前に決定する表示結果決定手段と、
前記遊技球検出手段によって検出された１個の遊技球に対して前記可変表示部において識別情報の可変表示を開始させ、表示結果を導出した後、前記遊技球検出手段によって新たな遊技球の検出を伴うことなく再び全ての可変表示部の識別情報の可変表示を再開し、その後表示結果を導出する複数回導出を実行するか否かを乱数によって判定する乱数判定手段と、
を備え、
可変表示実行手段は、前記乱数判定手段により前記複数回導出を実行すると決定されたときに、前記可変表示部において複数回の表示結果の導出を実行し、最終回の表示結果として前記表示結果決定手段によって決定された決定内容に対応する表示結果を導出する複数回可変表示実行手段を備え、
前記複数回可変表示実行手段は、前記複数回導出の途中での表示結果の導出までの可変表示のときに実行する演出表示と、当該途中での表示結果の導出後に再開された可変表示のときに実行する演出表示とを、異なる演出表示態様で実行することを特徴とする弾球遊技機。
【手続補正２】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００４
【補正方法】変更

【補正の内容】
【０００４】
請求項１に記載の本発明は、各々を識別可能な複数種類の識別情報を可変表示する可変表示部を複数有する可変表示装置を備え、前記可変表示部における識別情報の表示結果が予め定められた特定表示結果となったときに遊技者にとって有利な特定遊技状態を発生し得る弾球遊技機において、
遊技領域に設けられた特定領域において遊技球を検出する遊技球検出手段と、
該遊技球検出手段により遊技球が検出されたことにもとづいて、前記可変表示部において識別情報の可変表示を開始させ、表示結果を導出する可変表示実行手段と、
前記遊技球検出手段により遊技球が検出されたことにもとづいて、前記可変表示実行手段による識別情報の可変表示を開始させる以前に、前記可変表示部における識別情報の表示結果を前記特定表示結果とするか否かを判定する結果判定手段と、
該結果判定手段による判定に基づいて前記可変表示部における識別情報の表示結果をその導出以前に決定する表示結果決定手段と、
前記遊技球検出手段によって検出された１個の遊技球に対して前記可変表示部において識別情報の可変表示を開始させ、表示結果を導出した後、前記遊技球検出手段によって新たな遊技球の検出を伴うことなく再び全ての可変表示部の識別情報の可変表示を再開し、その後表示結果を導出する複数回導出を実行するか否かを乱数によって判定する乱数判定手段と、
を備え、
可変表示実行手段は、前記乱数判定手段により前記複数回導出を実行すると決定されたときに、前記可変表示部において複数回の表示結果の導出を実行し、最終回の表示結果として前記表示結果決定手段によって決定された決定内容に対応する表示結果を導出する複数回可変表示実行手段を備え、
前記複数回可変表示実行手段は、前記複数回導出の途中での表示結果の導出までの可変表示のときに実行する演出表示と、当該途中での表示結果の導出後に再開された可変表示のときに実行する演出表示とを、異なる演出表示態様で実行することを特徴とする。
【手続補正３】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００５
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正４】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】０００６
【補正方法】削除
【補正の内容】
【手続補正５】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００１５
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００１５】
本発明の構成においては、特定領域において遊技球を検出する遊技球検出手段によって検出された１個の遊技球に対して可変表示部において識別情報の可変表示を開始させ、表示結果を導出した後、遊技球検出手段によって新たな遊技球の検出を伴うことなく再び全ての可変表示部の識別情報の可変表示を再開し、その後表示結果を導出する複数回導出を実行するか否かを乱数によって判定する乱数判定手段が備えられ、乱数判定手段により前記複数回導出を実行すると決定されたときに、可変表示部において複数回の表示結果の導出を実行し、最終回の表示結果として表示結果決定手段によって決定された決定内容に対

応する表示結果が導出されるので、乱数判定手段が複数回導出を実行すると決定した場合にのみ遊技球検出手段による１個の遊技球検出に対して表示結果の導出を複数回行う構成となり、ひいては遊技の射幸性を向上することができる。

しかも、複数回導出の途中での表示結果の導出までの可変表示のときに実行する演出表示と、当該途中での表示結果の導出後に再開された可変表示のときに実行する演出表示とが、異なる演出表示態様で実行されるため、複数回導出に対する興趣を向上することができる。

【手続補正６】
【補正対象書類名】明細書
【補正対象項目名】００２８
【補正方法】変更
【補正の内容】
【００２８】

ところで、本実施形態に係る特別可変表示装置３０は、所定条件の成立により１回の始動入賞に対して図柄変動を２回行う（表示結果の導出を２回行う）ようになっており、この２回変動の制御は、図６に示す２回変動フラグの制御プロセスに基づいて行われる。図６において、先ず、特別図柄の変動が開始されたか否かを判別して（Ｓ１）、変動が開始されたと判別すると、次に前記ＷＣＲＮＤＫの抽出値が「０」か否かを判別する（Ｓ２）。そして、Ｓ２でＷＣＲＮＤ Ｋの抽出値が「０」である、即ち所定条件が成立したと判別した場合には、２回変動フラグをセット（Ｓ３）することで、特別図柄を２回変動する（表示結果の導出を２回行う）。一方、Ｓ２でＷＣＲＮＤ Ｋの抽出値が「０」以外であると判別した場合には、Ｓ３に移行することなくそのままメインフローに復帰することで、通常通り特別図柄を１回変動する（表示結果の導出を１回のみ行う）。